資料２
横浜市公立大学法人評価委員会
平成 20 年 7 月 29 日

平成１９年度公立大学法人横浜市立大学の年度計画に対する評価作業シート

年度計画（項目）	自己評価	委員評価	評価委員のコメント
Ⅰ　大学の運営に関する目標を達成するための取組	B	B	1.　設立の基本理念に則り教育研究の一層の充実を目指した取組みが、全体として着実に進められている。
		B	1.　「横浜市が有する意義ある大学」として存続するため、その運営に関しては多角的視点から取り組む努力がなされている。
		B	詳細は、以下のコメント参照
		B	1.　教育重視、学生中心の基本理念が充分外部にも周知されるように、一層の努力をお願いしたい。
		B	－

年度計画（項目）	自己評価	委員評価	評価委員のコメント
Ⅰ　大学の運営に関する目標を達成するための取組	B		
1．教育の成果に関する目標を達成するための取組			
1-(1)　学部教育の成果に関する目標を達成するための具体的方策	B	B	1.　国際総合学部という新しい学部創設の理念を具現化するために学部全体で精力的に取組みが進められていることは評価したい。新学部の目的にふさわしいカリキュラムの整備及びこれに基づく履修基本モデルのさらなる充実・周知を期待したい。またこれらの実践を通じて進められるべき改善改革計画書の早期作成を期待したい。 2.　TA の増員に伴う教育効果向上に関する報告書を作成し、その成果及び今後の改善へのいっそうの取り組み方向を明確にされたい。
		B	1.　国際総合科学部では、コース選択について学生に充分な指導を行った旨記載されているが、当該学生にアンケート調査を行って、その妥当性を評価する予定とのこと。その結果更に適切なガイダンスを施すことが期待される。 2.　理系では高大連携を進めた。 3.　大人数講義や実験実習の教育効果を高めるために、ＴＡを適切に配置した。 4.　医学部では、シミュレーターを用いた実技実習や実習内容画像化など新しい教育法を積極的に取り入れた。 以上学部教育の成果を上げるため、諸種の試みがなされている。国家試験の合格率も高い水準を維持でき、評価に値する。
		B	1.　「学部教育の成果・・・」については、年度計画における項目別の状況において、自己評価も殆どがＢ以上であり、Ｃについては若干あるものの重要性は少なく、総合的には積極的Ｂと評価する。
		B	

			－
		B	1.　懸案の各コース長からのコース運営に関する改善改革計画書を早急に完成させ、その内容を精査、総合的に検討し、カリキュラム等の更なる充実を図り、教育の成果につなげてほしい。 2.　医学部の医学科では、19 年度よりシミュレーションセンターを本格稼働させ、実技実習を行う一方、看護学科では、e－ラーニングを導入、看護実践評価ができるシステムの構築など、学習環境の整備・充実が一段と進んだことは評価したい。
1-(2) 大学院教育の成果に関する目標を達成するための具体的方策	B	B	1.　国際総合科学研究科における融合系の新専攻の設置は、新学部創設の理念具体化とも緊密に係わる課題であり、その早期設置に向けての積極的な取り組みを期待したい。また、質の高い看護実践の担い手育成のためにも看護系の大学院専攻ないし研究科の早期実現を期待したい。 2.　大学院担当者の増員など医学研究科におけるキャリア支援、個別指導体制の一層の充実を期待したい。
		B	1.　新しい研究科の設置、企業や研究所との連携、国際交流ネットワークの拡大等、今後の教育の成果に期待する。
		B	1.　「大学院教育の成果・・・」については、年度計画における項目別の状況において、自己評価がＡ．Ｂ．Ｃとかなり分かれていること及び内容を検討すると次の諸点に改善を要すと思われるので消極的Ｂと評価する。（特に、医学研究科において、改善点が多い。） ＜改善を要すと思われるもの＞ (1)　国際総合科学研究科 ①　融合系研究科については、19 年度の計画の設置準備に至らなかった。 ②　理系の新研究科では、国際会議への参加の奨励が 19 年度計画に入っていたが、出来なかった。 (2)　医学研究科 ①　「博士」関係で、謝礼問題・利害関係者の関与などの重大な問題点が表面化し、大学としての管理監督責任をどう果たすか、又、他に類似の問題点はないか等重要な改善事項がある。

			② ホームページの有効利用と履修要綱など資料の充実により、学生や教職員への情報提供を効率化する計画が、事務支援体制の整備の遅れにより実施できなかった。 ③ 学生アンケートの効率的な実施方法についても実施できなかった。 ④ 教務電算システムの改善を検討するキャリア支援とともに、引き続き修了者の進路データの収集方法や保存方法について検討し、実施体制を確立するは、教務事務支援体制が不十分で、実施体制の確立に至らなかった。 ⑤ 進路データを踏まえて、個別指導を実施するも、実施出来なかった。
		B	―
		B	1. 大学院教育の専門性を高め、教育研究の質の向上を図るため、ＮＴＴ、物性科学基礎研究所や農業生物資源研究所などと連携、大学院協定を締結したことは評価したい。今後は、具体的な成果をどう上げていくかが問われることになる。
２．教育内容等に関する目標を達成するための取組			
2-(1) 学部教育の内容等に関する目標を達成するための具体的方策	B	B	1. 医師国家試験の高い合格率を評価したい。 2. PE 合格率を含む PE センター設置による教育成果を明確にするとともに、TOEFL スコアをパスできない学生への具体的な対応・支援のあり方の検討を期待したい。
		B	1. 全国から優秀な学生を募るため、種々の広報活動を展開し、２１年度の入試改革に向けての基盤整備がなされた。 2. 学生教育の質の向上に向けてＦＤの充実、教育プログラムの充実に向けて情報教育の基盤整備、プラクティカル・イングリッシュセンターにおけるインストラクターの増員など、学部教育の充実に向けての取り組みが見られる。
		B	1. 「アドミッションズセンター」関係の要改善点 (1) アドミッションズセンター長の独立性

			(2)　入試管理委員会規程の見直し（確固たる入試実施体制の構築のために） (3)　医学部看護学科の推薦入学の実施 2.　入試倍率について (1)　国際教育と看護学科の入試倍率が前年より下がっているが、その原因追及をされたか。
		B	1.　入試に関する努力により、志願者が増加したことは評価できる。入試にともなうトラブルは大学のイメージを大きく損なうので、注意をはらって進めていただきたい。
		B	－
2-(2)　大学院教育の内容等に関する目標を達成するための具体的方策	B	B	1.　FD の実施にあたり教員評価制度を通じて教員の自主的な意識改革、取組みを促していくことは評価するが、具体的な授業評価（特にピアレビュー）等を通じて、教員各自の教育方法･内容等の改善にむけてのより実践的な取組みもあわせて進められることを期待したい。
		B	1.　大学院入試制度の多様化は推進すべきであり、特に学内推薦入試は卒業研究の継続性から早期の成果が期待され、論文投稿に至る可能性が高いので、できるだけ奨励すべきである。 2.　医学研究科における海外研究機関との教育研究連携は評価できる。
		B	－
		B	1.　国際雑誌への投稿には、最初は指導者の協力がかなり必要ではあるが、一度投稿して出版できた場合は、個人に取っては大きな経験となり、その後の発展の基礎となるので、今後とも重視していただきたい。

		B	–
2-(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための具体的方策	B	B	1. より優秀な学生を確保するためには大学全体としての明確なアドミッションポリシーの確立及びこれに基づく各種施策の総合的実施が不可欠であり、その前提となるアドミッションセンター長の位置づけ・処遇の明確化及び入試管理委員会規程の抜本的見直しと同委員会の活動のいっそうの充実を早急に進められたい。
		B	–
		B	1. 国際総合科学部 (1) 19 年度計画の、コース長、カリキュラム長等がカリキュラムに応じて研究院や病院から教員を確保できるよう、学部長と研究院長が調整できる仕組みを推進するは、未だ解決できていない。又、解決策が明確でない。
		B	–
		B	1. 入試広報活動について、オープンキャンパスの開催、推薦指定校への訪問、学外参加会場の増設など、多面的な展開を図った結果、志願者が増加し、相応の成果を上げたことは率直に評価したいが、少子化時代を背景に大学間の競争激化は避けられない状況の中、大学自体の教育の質の向上が基本であるが、アドミッションセンターが組織的に十分機能し、より総合的かつ効果的に運営されることが期待される。
3. 学生の支援に関する目標を達成するための取組	B	A	1. キャリア相談要員、キャリアサポーターの増員、福浦キャンパスにおけるカウンセラー等の配置など、学生のキャリア支援への積極的取組みを高く評価したい。 2. 特に 1,2 年次生のクラス担任教員の配置は学生指導上きわめて有益であり、その一層の充実を期待したい。

		A	1.　学生支援を様々な面で推進している努力と成果が散見される。
		B	1.　学生生活空間の拡充 (1)　施設担当 「引き続き整備を実施し、キャンパスアメニティの向上を図る」について、今後も対象を良く検討し、実施して欲しい。
		B	－
		B	－
4．研究に関する目標を達成するための取組	B	B	1.　受託研究件数・金額は増加しているものの共同研究及び寄付金受入れは件数・金額とも前年度より減少傾向にあり、外部研究費獲得および外部共同研究員の受け入れ等へのより積極的な取組みを期待したい。 2.　大学として戦略的に取組むべき重点研究分野のあり方の見直しにも積極的に取組まれることを期待したい。 3.　「利益相反マネジメント規程」の施行など研究倫理確立のための各種の積極的な取組みを評価したい。
		B	1.　地域医療貢献への取り組みが推進し、エクステンションセンターが急速に発展したことへの努力は評価に値する。高大連携も多角的に伸展し、市民への情報提供にも力が注がれる等、公立大学法人としての役割を遂行するための試みが各方面から行われていることがわかる。
		B	1.　「研究費の不正使用防止」に関して、具体的な不正防止計画とそれの実行及びあらゆる角度からの検討と実行が求められている。
		B	

				1.　先端医科学研究センターのような試みは、全国でも行われているが、困難も多いように見える。外部資金の獲得が重要であるが、内部的な体制を充分充実しておかなければ、それも困難となる。人的、物的な資源を今後どのように投下できるか、ご検討いただきたい。 2.　重粒子線治療装置の設置については、全国の医科大学の中で希望しているところが少なからずある。大型治療装置を医療の目玉にして行くような経営手法が適切なのか、装置の維持のために他の診療機能が犠牲にならないか、スタッフは充分に得られるのかについて検討をいただきたい。
			B	1.　先端医科学研究センターでは、バイオバンク部に続いて、19 年度に研究開発部、研究推進部を立ち上げ、研究の促進から成果の創出、社会還元まで、組織体制が整った。外部研究費獲得に向けての組織であり、その成果を今後に期待したい。

年度計画（項目）	自己評価	委員評価	評価委員のコメント
Ⅱ　地域貢献に関する目標を達成するための取組	B	A	1.　地域医療貢献推進委員会の定例開催、市民医療講座の定例開催等の地域貢献のための積極的な取り組みを評価したい。 2.　市教委との教育連携協定に基づく高大連携の具体的推進のための各種の取組みを高く評価したい。 3.　小学校英語教育サポーター構想の具体化が進んでいないことは残念である。構想自体の見直しも含め関係者間のより緊密な連携を期待したい。
		B	
		B	1.　（エクステンションセンター）　大学の知的資源の市民への還元という目から見ると、講座数. 受講人数共に前年比 191% . 145%と大巾に増加している。今後は、①市民の望んでいる講座か～受講者が極端に少ない講座がないか。②エクステンションセンター独立の収支計算の実施が望まれる。 2.　小学校英語教育サポーターの資格認定プログラム及びｅ－ラーニングの導入の２点について実施予定をつめる必要がある。
		B	―
		B	1.　エクステンションセンターは、講座数、受講者数も飛躍的に拡大し、地域貢献の実を上げたことは評価したい。ただ、講座毎に分析すると、参加者の極めて少ない講座も多々あり、費用対効果の点で若干疑問を感じた。スタートアップ段階でやむを得ない面もあるが、マーケットリサーチなど社会ニーズを的確にとらえ、計画的かつ有効な運営を図ることが望まれる。

年度計画（項目）	自己評価	委員評価	評価委員のコメント
Ⅲ　国際化に関する目標を達成するための取組	B	C	1.　海外からの留学生受入れ数増大は大学全体の国際化を進める上で不可欠の課題である。英語による授業科目の増加、留学生宿舎や奨学金枠の確保など留学生 200 名受入れ実現のための大学全体としての戦略的な取り組みを強く期待したい。 2.　海外の大学との協定に基づく単位の相互認定の促進、協定校以外の大学における学習の適切な評価制度、海外留学した際の在籍期間の通算制度など学生交流活発化への取組みを強く期待したい。 3.　外国人教員受け入れ増大に関する戦略的取組みを明確にされたい。
		B	1.　国際化は当大学の掲げる教育目標の大切な部分でもあり、留学しながら 4 年間で卒業できる学籍の整備を早急に行うべきである。 2.　海外フィールドワーク支援は評価に値する。
		B	1.　国際交流を推進するための体制 19 年度計画の 3 つの戦略の①海外での大学でも通用するカリキュラムづくりについて、単位認定や学部カリキュラム全体の国際化へ向けた見直しが出来なかった。（教学部門との連携不備） 2.　留学生受入 外国人留学生の受け入れ数を平成22年度までに200名とするための方策を検討するについて、具体的には何も見えない。（具体的工程表が必要）
		B	1.　留学生を増やす計画については、引き続き検討をおこなうのみでは実現困難のように思われる。
		B	

			1.　留学生の受入、海外の大学等とのネットワーク構築は、国際化の推進にとって極めて重要なテーマであり、数の上では一定の成果が認められる。しかし、中身を見ると、留学生はアジア系、特に中国、韓国がほとんどであり、偏りがみられ、横浜市立大学が目指す国際化はこれでよいのか疑問に思う。明確なビジョンのもと目標を定め、計画的に進めるべきと考える。

年度計画（項目）	自己評価	委員評価	評価委員のコメント
Ⅳ　附属病院に関する目標を達成するための取組	B	A	1.　年度計画に示されている取り組みが積極的に進められている。
		B	1.　中期計画･年度計画に基き、項目ごとに充実した取り組みがなされている。
		B	詳細は、以下のコメント参照
		A	－
		B	－

年度計画（項目）	自己評価	委員評価	評価委員のコメント
Ⅳ　附属病院に関する目標を達成するための取組	B		
1．安全な医療の提供のための取組	B	B	1.　年度計画が順調に実施されている。
		B	1.　安全な医療に向けての各種取り組みを着実に進めている。
		B	1.　①ISO9001.　②ISO14001.　③ISO15189 の認証取得と病院機能評価の取得について ①と②は、ISO 取得計画を変更し、病院機能評価の取得を中心に、③は ISO 認証取得しに向けて受審準備となっているが、両病院共に安全な医療の提供のためにと経済性の両面から ISO の取得と病院機能の取得をもっと整理区分して、平成 20 年度に実行して頂きたい。（特に ISO は種類別に区分が必要） 2.　新型インフルエンザ対策について 安全な医療のための現状では、事前対応が不充分ではないでしょうか。 3.　感染対策マニュアルの実施状況について 感染対策マニュアルを作成、配布し、状況把握をしているが、その実施状況について巡回監査を実施しているか。その結論が OK かあるいは不備があって改善を要するのか、もし改善を要するとすれば、どのように実施していくのかが重要である。
		A	―
		B	1.　懸案の病院機能評価の認定取得について

			ISO9001、ISO14001 の認定取得を取り止め、医療機関の第三者評価として実績のある「病院機能評価」を中心に取り組むとの方針変更だが、要は、安全な医療、良質な医療サービスを提供するのが目的であり、実質的に同じ成果が得られるのであれば、効率の点からも当然と考える。（方針変更ということもあり、本件への取組は相当遅れる結果となった。）
2. 健全な病院経営の確立のための取組	A	A	1. 付属２病院において前年比大幅な医業収益の増加を見たことを高く評価したい。 2. 看護師確保のための各種の積極的な取組みを評価したい。
		A	1. 健全な病院経営に向けての各種の取り組みが推進し、まずは増収を図ることができたことに加え、施設･設備の更新や環境に対する配慮も組み込まれ、充実した経営体制が評価される。
		B	1. 付属２病院の運営について ２病院共に診療収入が前年対比多額の増収となったことは評価出来る。 2. 個別項目別評価で見るとＡが 6、Ｂが 35 となっており、上記収入増を考慮しても総論としては、Ｂ評価と考える。 3. その他 ① 医薬材料費比率　（予　算）　（実　績） 附属病院　35.0%　36.5% センター病院　30.7%　33.8% 「診療材料検討会」の適切な運営と各契約の見直しが必要。 ② 診療外収入 センター病院のテナント家賃について、現行の賃貸条件改訂について、一部テナントからの同意が得られなかったが、その解決はどうか。 ③ 業務委託 医療業務委託の効果的な対応をしたとあるが、結果を数字で示していない。又、当然のことだが、業務委託契約についての透明性が確保されているか。

			④　医療機器等の共同購入 入札に関する規程が整備され、それに基づいて透明性のある入札が実施されたかが不明。
		A	1.　病院経営は大いに改善しており、評価できる。しかし、国立大学法人の附属病院に比較して、経営改善係数などの交付金削減の仕組みが課せられていない点など、有利な面を生かして、今後ともご努力をお願いしたい。 2.　病院長に、今後、どのように人事面、予算面で権限を強化させるのかを、ご検討いただきたい。 3.　診療科の再編は、内科系、外科系で明瞭な方向性をもって行われているとは考えにくい。横浜市立大学に取って、最適の診療科再編とは何なのか、ゴールが見えない。どこまで再編をするのかのゴールを明らかにしていただきたい。現時点では、外来だけという状態であるが、それで終了であろうか。 4.　附属病院とセンター病院とで、共通して行うことが望ましい事業と、独自に行うべき事業の区別をつけつつ、今後の方針を検討していただきたい。例えば、電子カルテなどは協力が必要であろう。電子カルテを別々に検討するようでは、両病院の機能的な協力など考えられない。
		B	1.　附属２病院の増収成果については高く評価するが、一方で、財務諸表等の分析結果では、収益面で課題を残したことも事実であり、今後の対応が望まれる。 2.　病院長の権限強化は、病院の機動的、効率的な運営に資する点では、重要かつ有効なことであるが、法人組織の一部門であることに変わりなく、いわゆる法人としてガバナンス（内部統制、予算統制など）が十分機能することが前提となる。
３．患者本位の医療サービスの向上と地域医療への貢献のための取組	B	A	1.　センター病院が地域医療支援病院の承認を受けたこと及び「かかりつけ医案内コーナー」の開設など相談体制の整備を進めていることを評価したい。 2.　診療待ち時間表示を開始されたことは評価するが、同時に待ち時間自体の短縮にも引き続き努力されたい。 3.　各種の市民向け講座の開催、院外広報誌の刊行等の開かれた病院を目指す努力を評価したい。
		B	

			1.　地域医療従事者への研修機会の提供や、市民講座の開催など、地域医療の貢献に努めた。また2病院における特性や位置づけが、より明確になった他、患者へのサービス向上に努力している。大学病院として初の地域医療支援病院の承認を受けたことは評価される。益々地域との連携を大切にされたい。
		B	1.　待ち時間の短縮 診療待ち時間、会計待ち時間共に年度計画を達成し、一定の成果を上げた。しかし、「患者本位の医療」のためには、まだまだ待ち時間短縮を追求する必要がある。特に会計待ち時間は事務管理の効率化のことであり、30 分以内なら良しとする考えは甘いと思う。
		A	1.　二つの病院役割を、明確にしてきたのはよいが、それぞれが独立の道を歩くのか、協力するとすればどのようにするのかがわかりにくく、運営は易しくないと思われる。将来ともに全く別々の病院として、徐々に分離していく路線のように思われるが、それで適切なのだろうか？ 2.　両病院とも、法人化後、活性化して来ていることは評価できる。
		B (A)	1.　センター病院が、大学病院として初の地域医療支援病院の認証を受けたほか、附属病院は、日本がん治療認定機構の認定の研修施設になるなど、成果を上げた。 2.　患者本位の医療サービスの向上のため、市民講座の充実、相談コーナーの開設、広報誌の発刊等々、意欲的な取組がみられ、又、指摘事項であった待ち時間の短縮についても一定の成果がみられた。
4．高度・先進医療の推進に関する目標を実現するための取組	A	A	1.　両病院ともに高度先進医療承認に積極的取組みを進めていることを評価したい。 2.　女性専門外来の開設が見送られたことはやむをえないが、当初の構想の趣旨が実現できるよう期待したい。
		B	1.　「オーダーメード医療推進外来」の開設など専門性の高い高度・先進医療が提供され、高く評価される。
		B	1.　項目別評価は８件中５件がＢ評価なので、Ｂとしたが、内容からＡで良いのでは？

		A	—
		A	—
5．良質な医療人の育成に関る目標を実現するための取組	B	B	1. 市大病院学会開設の構想は、職種を超えた病院構成員間の情報の共有と一体感の醸成とともに地域医療機関関係者との連携の強化と医療専門職としてのスキルの一層の向上等を目的としたと思われる。その構想の趣旨が十分生かせるよう今後の取り組みに配慮されたい。 2. 研修医の確保及び彼らに対する充実した研修実施のため臨床研修センターの改編、協力病院の確保等が進められていることを評価したい。 3. 教育研修センターの設置が見送られたが、各種研修充実のための関係者のより緊密な連携体制の確保に努められたい。 4. センター病院の院内広報誌の創刊を評価したい。
		B	1. 医療人の育成にさまざまな取り組みをしているが、女性医師の確保に対する支援には、特に内容の充実を図って欲しい。
		B	—
		A	1. 専門医研修プログラムの良否は、今後、大きく病院のあり方に影響するので、今後とも重点を置き、優秀な後期研修医を全国から獲得していただきたい。
		B	—

年度計画（項目）	自己評価	委員評価	評価委員のコメント
Ⅴ　法人の経営に関する目標を達成するための取組	B	B	1.　年度計画に示された取り組みがほぼ順調に進められている。
		B	1.　１８年度よりさらに経営の効率性、合理性を高めるための取り組みが行われたが、懸案事項の一部は達成できていない。
		B	評価は、以下のコメント参照
		B	－
		B	－

年度計画（項目）	自己評価	委員評価	評価委員のコメント
Ⅴ　法人の経営に関する目標を達成するための取組	B		
1．経営内容の改善に関する目標を達成するための取組	B	B	1.　学費システムの大幅改善により経営の効率化及び学生・保護者対応の改善が図られたことを評価したい。なお学費改訂は教育内容改善と緊密に関連すべきものであり、今後この面での具体的取組を期待したい。 2.　八景キャンパス整備マスタープランの策定は評価したい。なお、その実現方策について財源確保の問題を含め、現在の中期計画との関連を明確にされたい。 3.　ISO14001 取得に代わる大学独自の環境管理計画を早急に策定し、実施に取組まれたい。
		B	1.　学費やエクステンションセンターの受講料の納入にクレジット決済やコンビニエンスストアでの納入を導入するなど、経営の効率化とサービス向上の両面から効果を上げた。 2.　ＩＳＯ１４００１に関しての選択は適切であると思う。大学の特性にあった環境管理計画を早く策定して取り組んで欲しい。
		B	1.　経営内容の改善について (1)　対前年比で見ると ①　収入は授業料収益等、附属病院収益、受託研究等収益合計で、1,998 百万円増加。 ②　費用は、業務費（教育・研究経費等、診療経費、教員・職員人件費）一般管理費等合計で 2,771 百万円増加。 ③　差引（①－②）で 773 百万円のマイナスとなっており、総括としては、前年より経営成績は悪化している。 年度計画の(2)自己収入の増加 (3)経費の抑制という観点からみると、(2)は増加したがそれ以上に(3)が抑制出来なかったということになる。

			(2)　対収支計画比で上記１－①及び②と同じように見ると ①　収入は 2,134 百万円増加 ②　費用は 1,125 百万円増加 ③　差引（①－②）で 1,009 百万円のプラスとなっており、総括としては、収支計画より経営成績は良好となっている。 (3)　このことは、対前年比の増加原因分析や収支計画の妥当性を検討して（計画作成の時期を含めて）今後の法人経営に生かす必要がある。
		B	―
		B	―
２．業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組	B	B	1.　外部研究費に係る間接経費をその経費割合を見直すとともに､獲得者に対する配分ルールを明確化したことを評価したい。 2.　「財務レポート」の作成・公表を評価するとともに、その内容のいっそうの改善充実を期待したい。 3.　大学運営には車の双輪ともいうべき教学組織（教員）と事務組織（職員）の緊密な連携、役割分担が不可欠であり、そうした観点からの業務の分担並びに組織及び人員配置の不断の点検、見直しを進められることを期待したい。 4.　同時に法人全体としての戦略的な経営方針とその実施体制の確立が不可欠であり、理事長及び学長のリーダーシップが十分機能するよう、各部局間及び部局内部の緊密な連携のいっそうの強化に引き続き取組まれることを期待したい。 5.　教員評価制度による評価結果が、早い機会に教員の処遇に具体的に反映されることを期待したい。また、テニュア教授制度はこの評価制度とも極めて密接に関連するものであり、サバティカル制度等も含め、教員評価制度の一環との位置づけのなかで早急に具体化に取り組むことを期待したい。
		B	1.　大学の財務内容等の公開、内部監査機能の充実等運営体制の改善がなされた。 2.　人事考課制度を早急に検討・実施することが望まれる。 3.　教員評価結果の処遇への反映は、慎重に行うべきである。

			4.　特別契約教員の採用は、「定年の意味」をよく考慮して行うべきであるが、その効果を見ていきたい。
		C	1.　予算（収支計画）について (1)　２病院の個別予算（収支計画）を ①附属病院収益 ②業務費（教育・研究経費等、診療経費、教員・職員人件費）一般管理費等に区分し、適時・適切に作成することが必要である。 (2)　予算（収支計画）についての所管部門のコメントが年度計画における項目別状況に必要である。 2.　運営体制の改善（運営組織の効率的・機動的な運営、内部監査機能の充実）について (1)　医学研究科博士課程における「学位論文審査に関する謝礼授受等」問題については、運営組織及び内部監査組織の両機能が問題であり、結果として、この件について両組織が機能していなかったということになる。そこで業務運営の改善及び効率化という視点から、さまざまな改善が行われてきたにもかかわらず、結果としては、C評価となると考える。
		B	1.　月次決算の早期化、診療科別原価計算表などのデータを作成したことにより、経営方針がより合理的に立てられるようになったことは評価できる。 2.　市民向けのパンフレット類は、よく充実している。 3.　「より客観的な学位論文審査が行われるような体制」、というのは、大学が「金銭授受はあったが、審査は公平に行われた」と言ってきた従来の立場と異なる。 4.　コンプライアンス推進体制と言っても、内部告発のみに依存するのでは充分とは言えない。具体的な体制が現状ではよく見えないので、今後、検討いただきたい。 5.　教育の自己評価に、まだ否定的なメンバーが存在するとすれば、克服していただきたい。 6.　任期制とテニュア制は、慎重にお考えいただきたい。特に、任期の場合の再任をどうするのかは、検討を要する。テニュアを、教授以外に与えるのは、問題が多く、制限が必要である。（個人的にはテニュアを与えるのであれば教授にするべきであると考えるから） 7.　大学での評価において自己点検・自己評価が重要であるという主張であれば、その通りと思うが、最後は外部医員を入れた評価をしなければ、内にこもったものとなる。今後よくご検討をお願いしたい。

		B (C)	1.　財務レポートを作成し、市民等に分かりやすく経営情報を開示したことは、市民に開かれた大学として、また、地域との関わりを深める手段として、高く評価したい。内容もグラフ、表を多用し分かり易く、しかも、経済効果や行政サービスコストなどにもふれ、内容の濃いものとなっている。さらに今後、財務面にとどまらず、大学が地域で果たしている地域貢献活動も幅広く紹介し、理解を深める工夫が必要である。 2.　今回、発覚した「学位論文審査に関する謝礼授受」の問題は、内部監査機能、コンプライアンス体制が十分機能していないことをいみじくも露呈する結果となった。対策委員会の調査結果を踏まえ、教職員の意識改革はもとより、一段の内部監査機能の充実とコンプライアンスの徹底が強く求められる。 3.　教員評価制度の導入は、相当困難の伴う作業であり、対象者の 95%もの評価を決定したことは労を多としたい。人材育成と組織の活性化に質すること、公平性、納得性がどの程度担保されたか、第三者の立場で、中身の評価は難しいが、円滑な運営に一層の努力を期待したい。
3．広報の充実に関する目標を達成するための取組	B	B	1.　企画ごとのプロジェクト制による学生の広報ワークショップ活動が活発に展開されていることを評価したい。 2.　英語版ホームページの早急な立ち上げを期待したい。
		B	1.　大学の広報に、学生の視点を取り入れたことは大いに評価され、地域貢献にも一役買うことができた。大学案内(学生募集のための）の制作にも学生の視点を取り入れることが望まれる。
		B	1.　上記の業務運営の改善で述べた問題点が発生した時点での「広報」の対応に問題がなかったか検討を要す。
		B	－
		B	－

年度計画（項目）	自己評価	委員評価	評価委員のコメント
Ⅵ　自己点検･評価、認証評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための取組	B	B	1.　本評価委員会による 18 年度指摘事項への対応のための取り組みを精力的に進めたことは評価したい。
		B	1.　全学的な組織で自己点検・評価が適切に行われている。平成２１年度受審の認証評価に向けて大学総合データベースの構築に取り組んでいる姿勢が見受けられる。
		B	－
		B	－
		B	1.　評価委員会の評価結果及び指摘事項を大学評価本部等で受け止め、課題の共有化を図り、改善に向け取り組み、業務に反映させるなど、組織全体としてＰＤＣＡサイクルの充実に一定の成果を上げつつあることは評価したい。

年度計画（項目）	自己評価	委員評価	評価委員のコメント
Ⅶ　その他業務運営に関する重要目標を達成するための取組	B	B	1.　年度計画が順調に実施されている。 2.　防災等にとどまらず、法人運営全体をカバーしうる総合的な危機管理体制の構築を考慮されることを期待したい。
		B	1.　職場環境の改善、防災対策の強化、個人情報保護の徹底化等の取り組みも順調に行われている。
		B	詳細は、以下のコメント参照
		B	－
		B	－
1．安全管理に関する目標を達成するための取組	B	B	1.　緊急地震速報への大学としての取り組みを早急に進められたい。
		B	1.　安全管理に向けて諸種の取り組みがなされた。
		B	1.　ハラスメント防止について 研修や窓口委員増員は評価出来るが、1年間の結果評価をどのように実施して、どのような結果だったかが不明。
		B	－
		B	

			－
2. 情報公開の推進に関する目標を達成するための取組	B	B	1.　引き続き個人情報保護に関する意識向上のための各種の取り組みを期待したい。
		B	1.　情報公開の取り組みを積極的に推進すべきである。
		B	1.　個人情報保護について 個人情報保護に関して、自主点検や外部講師の研修会を実施した結果、法人として問題はなったか、又、改善すべき点はなかったかが不明。
		B	－
		C	1.　大学には、教職員、学生などに関する膨大な量の個人情報が存在しており、意識向上や研修会の実施など、努力はうかがわれるが、対応の遅れが懸念される。制度的・システム的な仕組みづくり、管理体制の整備が急がれる。

年度計画（項目）	自己評価	委員評価	評価委員のコメント
Ⅷ　予算、収支計画及び資金計画	―	―	1.　授業料改訂及び付属病院における医業収益増等の経営改善への努力により、運営交付金の減額、臨時損失の計上等にもかかわらず、当期純利益 199 百万円の計上を見たことを評価したい。 2.　年度当初の収支計画を下回ったとはいえ教職員人件費が対前年比約 13 億円の増加となっている。教育研究、診療の質のいっそうの向上を図るなかでの適正な人件費比率のあり方について、さらなる検討を期待したい。
		―	―
		B	予算、収支計画及び資金計画については「Ⅴ法人の経営に関する目標を達成するための取組」参照
		―	―
		―	―

＜全体的所見＞

1. 法人全体としては、19 年度計画がおおむね順調に実施されている。これは多くの法人構成員の地道な取り組みに基づくものであり、今後とも引き続きその努力が積み重ねられていくことを期待したい。
2. ただし、ごく一部の構成員の係わることとはいえ、医学研究科における不祥事が明らかになったことは、市民の大学に対する信頼を大きく損なう極めて遺憾な事態である。早急に法人として本件に対する明確な対応を示されたい
3. 本件を含め、教育研究、診療を含めた法人運営全体のなかで、いやしくも法令違反はもとより健全な社会慣行・良識にはずれる行為が今後再び生じることがないよう、対策委員会最終報告書に示されている職員行動基準の策定、リスク情報管理体制の整備、事件事故等発生時の危機管理体制の構築など、内部統制・管理体制の確立を早急に進め、この種の問題の根絶に法人をあげて全力で取り組まれたい。

1. 財務諸表等の整備が進み、経営の透明性が向上しつつあることは率直に評価したい。ただ、セグメント情報について、大学を更に国際総合科学部と医学部に分離し、また、人件費などの費用を実態に即して配賦し、より精度を高め、部門別の収益状況が適切に把握できるよう努力願いたい。
2. 収益面では、附属２病院とも入院単価、外来患者数、外来単価など前年度比増となり、加えて授業料の値上げにより授業料収益等も寄与し、増収となった。一方で、経常経費も診療経費、人件費、設備経費などが増加し、経常利益は大幅に減益となり、悪化した。
3. 財務諸表の賃借対照表前期比較表からも明らかなとおり、建物、工具器具備品費及びシステム開発関連が増加しており、このことが人件費の急増と相俟って固定費の水準を上げ、収益の圧迫要因となっている。
4. 計画推進のため止むをえない部分もあり、また、市の中核医療機関としての社会的使命もあり、経営とのバランスをどう考えるのか、今後の課題である。また、経営の根幹となる予算統制（収支計画、設備投資計画、人員計画、資金計画など）が十分機能する仕組みづくりが必要である。